「シン経済教育プログラム」実践報告

提出者（　新井　明　　）

学校名	■ 中学校　□ 高等学校　学校名：筑波大学附属中学校
対象学年・人数・実施科目名	学年：__3 年__　人数：__80__名　実施科目名：__公民・経済分野__
実施時期	__2026__年__9__月 15__日　（　全__1__コマ　）

⑤ 取組みの内容（概略）

・定期テスト前の浮いた時間に 2 クラスで実施。生徒が取り組んだ時間は実質 30 分弱。
・「シン経済教育プログラム」を基にした「吾輩はカレーである」の冒頭 3 章分を読ませて、ワークシートに記入させて回収した。（資料は別添）
・授業は、三年公民分野で報告者は非常勤講師として、週 1 時間年間通して経済を教えている。ここまで、『レモンをお金にかえる法』の正と続を読ませている。また、基本概念、市場、価格、企業、労働、景気変動などを学習済みである。

⑥ 成果（概略）

・ワークシートの 1 読み取りクイズは易しいので全員正解。2 の経済との関わりを考えようは、ヒントに「つながり、インフラ、市場、価格、競争」などを付けていたので、読み取りもほぼ出来ている。
・4 講以降読みたいかという **5 段階評価のアンケート**では、以下の分布であり、生徒の評価は高いと言える。
とても読みたい 27.8%、読みたい 56.9%、どちらともいえない 11.1%、あまり読みたくない 1.4%、読みたくない 2.8%（n=72 人、うち 61 人がとても及び読みたいに○）
・理由では、ストーリーが面白いが多数。次が読みたい（揚げパンとの対決があるのか、市場で負けるとどうなるのかなど）という意見が続く。給食のカレーで経済が学べるのは面白いなどもあった。カレーが食べたくなったが複数。カレーが学校の教室に届くには無数の人間がかかわっていることに改めて気づいたという感想アリ。
・経済について考えるときに、消費者や生産者の視点ではなく商品視点なのが面白かったという感想アリ。
・給食は自治体からお金が出ていると思うので地方財政がどうなっているか気になったという感想アリ。
・カレーがこれからどう成長するかが気になるという感想アリ。

⑦ 課題

・少数意見だが、ストーリーそのものが面白くないというものがあり。（読みたくない生徒）ストーリーや具体例から入るスタイルの有効性はあるが、ストーリーの質及び対象生徒の知的関心の度合いが問題であろう。
・漱石要素が最初しかないというコメント、AI がパクった感じが出ていたのでもう少し工夫したらもっと良いというコメントもあり。（続けて読みたいという生徒）
・ここからもっと企業や家計のつながりをそれぞれの立場に立って知りたい。（読みたくないという生徒）
・この先、設定に不都合がでてくるのではという指摘あり。（あまり読みたくないという生徒）
・導入としてはよいが、教材としては物足りない、普段の授業の方がよいという指摘あり。（どちらともいえないという生徒）
・読本としては良いが、4 基盤への誘導などの仕掛けがもっと必要であろう。（新井の感想）

⑧ プログラム改良の提言

・単元の終わりの復習で使うとよいとの生徒の提言あり。
・これを教材として使うなら、カレーの誤解を減らし、もっと豆知識を知りたいと思ったという生徒の感想あり。
・少数の意見を踏まえて、改良をするとよいだろう。今の生徒層から考えると、今回は、投げ込みで一部だけだったから生徒を引っ張ることができたが、全体をこのトーンで通すことは難しいだろう。
・その意味では、カレーのような物語のプログラムだけで経済学習を構成するのはリスクがあるのではと感じる。
・カレーの完全版のように授業マニュアルを同時に用意して、押さえるべき知識や問いかけの方法、生徒の討論などを組み合わせたハイブリッド型の授業をそれぞれの授業者が開発することが求められるということになろう。
・導入で使うか、生徒の提言のように復習で使うなどの多様な使い方で普及を考えると良いのではないか。
・学校や生徒の実情にあわせて、本体のシン経済教育プログラムをある程度自由に改変して利用することが、これまでのように教材をそっくりマネするよりも、教員の教材開発のインセンティブにもなり、また、AI 時代に対応した教材の開発の試みにもなりうるので、このプロジェクトの趣旨にあうのではと報告者は感じている。